

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和6年9月25日 VOL. 183

映画
上映会

『オレンジ・ランプ』× アフタートークを開催

令和6年9月15日（日）生涯学習センターを会場に、映画『オレンジ・ランプ』上映会とアフタートーク～認知症の人とともに語る～を開催し、144名が参加しました。

『オレンジ・ランプ』は39歳で「若年性アルツハイマー型認知症」と診断された、丹野 智文氏の実話を元にした映画であり、上映後には丹野 智文氏から参加者へメッセージが送られました。



丹野 智文氏

私は診断されて11年経ちますが、こうして元気に活動しています。そのことを知ってもらいたくて映画の撮影に協力させていただきました。

「認知症になっても安心な藤枝市」ではなく、ここにいるみなさんが「**安心して認知症になれる社会**」を一緒に創っていきましょう。



アフタートーク ～認知症の人とともに語る～

認知症の人が日頃の思いを伝え、参加者と映画の感想を語り合いました。

認知症と診断されて数年が経ちますが、今は就労支援事業所で働きながら暮らしています。特別に困ることはないけれど、これからもできることを続けていきたい。

認知症と診断されたときは、働いていました。認知症になり忘れることは仕方がないと思っています。「苦しい」気持ちで暮らすのではなく、日々を「楽しく」暮らし続けたい。

映画を観て、自分が認知症になったら、仕事のことで助けてもらうことがあるかもしれないから、周りの人に伝えて、サポートしてもらいたいと思った。今日は孫と一緒に観にきています。

専門職として認知症の人と関わる中で、家族から「友だちとして会いに来て」と言われたことがある。映画や認知症の人との関りから、「認知症の人」ではなく、「人」として接することの大切さを感じています。

参加者の声 ～アンケートより～

- ・ 認知症の人のお話をお聞きして、認知症だからと言って特別扱いするのではなく、「普通」に接することが大切だと感じた。（10代）
- ・ 認知症の人にやさしい社会は、認知症でない人にも生きやすい社会になるだろうなと思いました。（20代）
- ・ 自分が認知症になっても大丈夫な地域に、自分も一緒になって創っていけると良いと思います。（40代）
- ・ 少子高齢化を考えると学校などでも上映し、共生できる藤枝市になってほしい。（40代）
- ・ 自分や家族が認知症になった時、周りに「認知症です」と告知できるか分からないが、周囲に知ってもらうことで、認知症になってからも社会は広がると思った。（60代）
- ・ 認知症の人の生の声が心に届き、自分の問題（誰もが認知症になり得る）と感ずることができた。（70代）

最後には、今年度作成した 動画「**共創のまち～認知症と共に生きる、私たちの声**」を上映しました。

藤枝市では、今後も **認知症の人の声や姿から「認知症とともに生きることへの理解」**を深められるような機会を創出していきます。

